

第49号

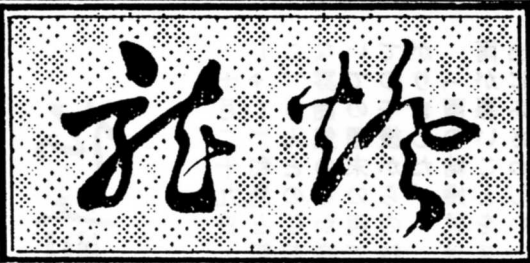
大阪市史跡 龍溪禪師墓所 雲竜山九島院

発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)



お寺が栄えることは檀信徒の皆様喜びであり

もったい 勿体ないは世界の共通語

物のいのちを大切に!

今や「もったいない」という日本語が、世界の共通語となりつつあります。

二〇〇四年のノーベル平和賞受賞者でケニア共和国環境副大臣ワンガリ・マタイさんが、日本で知った言葉「もったいない」に心を打たれ、国連女性会議で演説し「もったいない」運動を世界的規模で展開しようと提唱されました。

マタイ女史は、「私たちの住む地球を破壊に追い込む深刻な脅威を減らすためには、資源の無駄遣いをなくし(リデュース)、使えるものは再使用(リユース)、そうでないものは再利用(リサイクル)するしかなく、これらを一言で表しているのがこの「もったいない」という日本語の言葉」だと言っています。そして「もったいない運動」を世界に広めることが、地球の環境問題を解決できる道なのだと言われたのです。

「もったいない」は、仏教語からきている言葉です。広辞苑によると、「物の本体を失する

意」とあり、使えるものを粗末にしたり、生きる好機をみすみす失ったりする時に、よく使われます。

昔は、子供がご飯をこぼしたり、おかずを食べ残したりすると、親から「もったいない」といって叱られました。また、プロ野球など、一打同点または勝ち越しのチャンスで、期待の打者が三振したりしたとき、観客席から思わず「惜しい」「もったいない」などと呟きが聞こえます。

「もったいない」は、世の中の事々物々すべては、みな互いに持ちつ持たれつの関係でこそあれ、それ自身単独でわが本体とすべき存在ではないという仏教の基本的な考えかたを示しています。

つまり、「ものがなくなる」という物的損失を惜しむ気持ち以上に、失ったものを手にしたり、完成させたり、そこにたどり着くまでの「形には表れない大切なもの」に馳せる感謝の気持ちがあるのです。



ノーベル平和賞受賞者 ワンガリ・マタイさん

仏教では四つの恩を説きますが、その一つ「衆生の恩」は、生きとし生けるもの、私たちを取り巻くすべてのものに対する感謝を説きます。たとえ湯や水といえども必要最小限の使用にとどめ、禅寺の食事作法にもとりいれられています。

また、「有り難い」「おかげさま」とともに「勿体ない」という日本語は、日本人の日常生活に溶け込み、「供養」といううるわしい行事を生み出しています。使いふるされた筆や裁縫の際折れた針のために供養し、塚や塔をたて、「衆生の恩」に報いてきました。

ところが今日、それらが失われていくのは残念なこと。現代の日本人が忘れてしまった精神を外国人であるマタイさんに教えられたのです。

「もったいない」とは、物のいのちをわが命と同様に大切にすることなのです。

